

産地パワーアップ事業評価書

都道府県名	事業実施 地区数 ア	評価対象 外地区数 イ	評価対象 地区数 ア+イ	成果目標の平均達成率	評価対象 地区数のうち、都道府 県が地域 協議会へ 改善指導を 必要とした 地区数	地方農政 局等から都 道府県計 画の改善 指導の必要の有無	【参考】 評価対象 地区数のうち、達成率 80%未満の 地区数	都道府県による総合所見	地方農政局等による総合所見
佐賀県	9	0	9	69%	5	有	5	<p>「生産コスト又は集出荷・加工コストの10%以上の削減」を達成できたものが2地区、「販売額又は所得額の10%以上の増加」を達成できたものが2地区、成果目標を達成できなかったものが5地区あった。</p> <p>目標を達成した4地区については、施設の維持管理費低減や収量等で伸び悩んだものもあったが、事業実施により作業の効率化や、ブランド化の推進による需要増、また販売額の価格補正などにより目標を達成することができた。</p> <p>目標が達成できなかった地区のうち、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・果樹1地区については、施設運営コスト軽減のためにロスを減らす取組等、新しい対策を実践してきたものの、資材費・人件費の大幅な高騰、市場ニーズに合わせたパッケージ種類の増加に伴い、施設運営コストが増加し目標達成できていない。 ・麦、稲、大豆1地区については、一定の事業効果は見られたものの、取扱量の増や燃料費の高騰等により目標達成できていない。 ・野菜3地区については、玉ねぎは定植後の乾燥による初期生育の遅れが影響した減収、アスパラガスは平成30年7月豪雨(前線及び台風第7号による大雨等)や7月中旬以降の記録的高温等の影響による減収、キャベツ・レタス・ダイコンは目標面積の未達や出荷時期の集中により他県産材料を使わざるを得なかったこと、などが原因で目標達成できていない。 <p>今後は関係機関と連携し、運営面では施設運営の効率化(作業時間短縮等)や一括購入等による経費削減などの対策、また生産面では作付面積増加への支援や、排水対策や土づくり、異常気象にも対応した栽培管理の徹底(補植、乾燥時の定植後のかん水など)による収量向上、などが図られるよう指導する。</p>	<p>県の成果目標平均達成率は、国が達成と判断する90%に対し、69%であり、目標は達成されていない。</p> <p>このため、農政局から県に対し、成果目標の達成に向け、要因の分析及び改善措置の提出を求めるとともに、未達成の地域協議会及び取組主体に対しては、県担当者による指導を行うなど、県による主体的な取組を指導する。</p> <p>なお、佐賀県が改善指導を必要とした地区(達成率90%未満)については、以下の5地区である。</p> <p><参考: 成果目標未達成地区の概要></p> <p>【米・麦・大豆】1地区</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「集出荷コストの10%以上の削減」を目標に米麦大豆の集出荷調製貯蔵施設の再編整備を行った1地区について、麦の豊作により荷受量が増えたこと等により成果目標は未達成となった。 <p>【野菜】3区</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「販売金額の10%以上の増加」を目標に、たまねぎの集出荷施設の整備を行った1地区について、定植後(H29年11月～)の乾燥による生育遅れから単収が低下したことにより、成果目標は未達成となった。 ・「販売金額の10%以上の増加」を目標に、アスパラガスの選別機・計量結束機の整備を行った1地区について、平成30年7月豪雨等の影響による減収により、成果目標は未達成となった。 ・「販売金額の10%以上の増加」を目標に、キャベツ・レタス・大根の農産物処理加工施設の整備を行った1地区について、暖冬による出荷時期の集中で原料不足時期が生じ、他県産材料を使わざるを得なかったことにより、成果目標は未達成となった。 <p>【果樹】1地区</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「集出荷コストの10%以上の削減」を目標に、果樹(温州みかん、中晩柑)の集出荷貯蔵施設を整備した1地区について、市場ニーズに応じた出荷による販売額の向上や、取扱量の確保によるコスト低減などに取組んだものの、資材価格高騰に伴う資材費の増加や最低賃金の上昇に伴う人件費が増加したことにより、施設運営コストが増加したことから、成果目標は未達成となった。